

水田貯留に ご協力をお願いします。



今、雨の降り方が変わってきています！

最近の雨

ゲリラ豪雨や集中豪雨による災害が、全国において頻繁に発生しています。安城市においても令和4年7月末豪雨にて1時間最大降雨量92mm、総雨量144mmを記録し、床上浸水12棟、床下浸水24棟の被害が出ました。



通常時の追田川



豪雨時の追田川

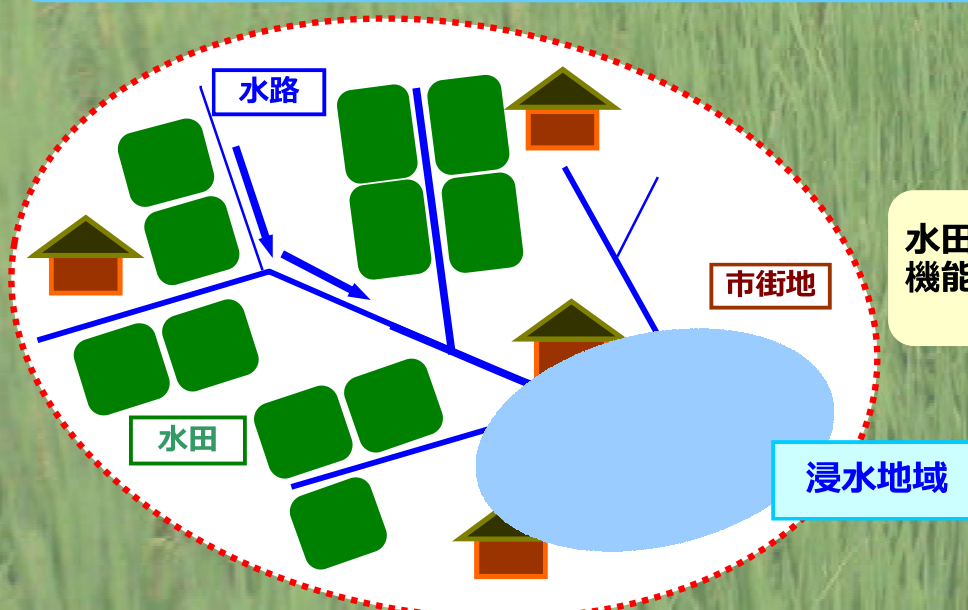
『水田貯留』に取り組むことで、より災害に強いまちづくりが実現できます！

より災害に強いまちづくりへ

「雨を速やかに流す」から「雨を貯める、浸透させる」へ発想転換し、「より災害に強いまち」にしたいと考えています。

その方法のひとつが“水田貯留事業”です。水田に雨を5cm程度もう少しだけ余分に貯めることで、洪水被害を軽減させることができます。

この事業は、私有地である水田を利用して行うため、水田の所有者、耕作者の協力が必要です。



水田はミニダムの機能をもっています。



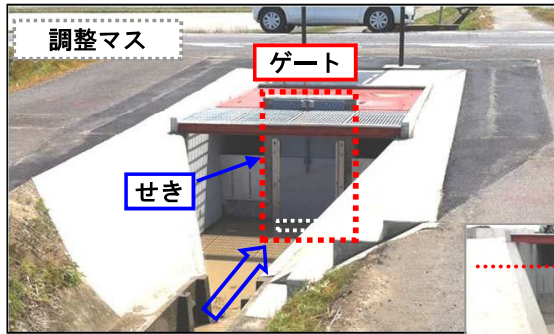
『水田貯留』の方式～いつもより『もう少しだけ余分に』貯める～

水田貯留には、①水路流量調整方式と②排水マス流量調整方式があります。どちらの方式も、水田にいつもより『もう少しだけ余分に』雨水を貯めることができます。

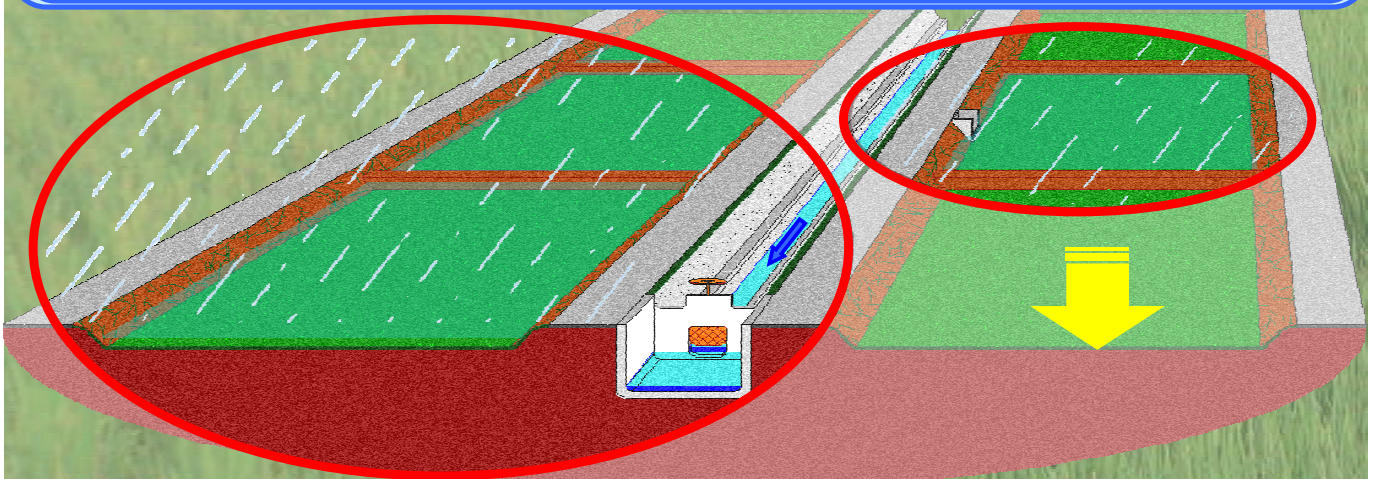
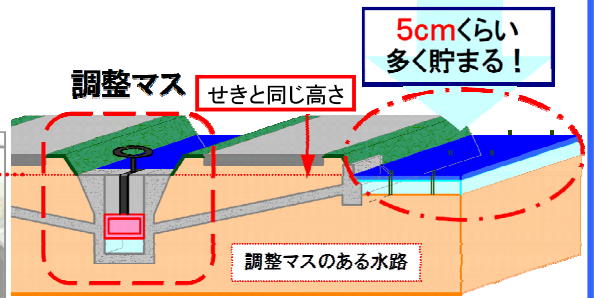
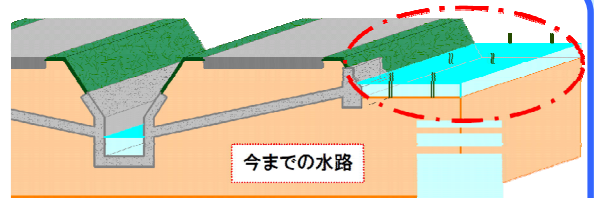
『たくさんの水田で、同時に』雨水を貯める ①水路流量調整方式

◆水路の流量を調整できるマスを設置します。

- ・下流に流れる量を少なくすることで、一時的に水田と水路に雨水を貯めます。

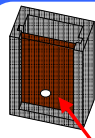


※転作時は作物に影響を与えないように、ゲートを全開にします。



『ひとつひとつの水田で』雨水を貯める

②排水マス流量調整方式



・一筆排水マスに、5cmの孔が開いた水田貯留用のせき板を設置することで、いつもより5cm程度余分に雨水を貯めることができます。

水田貯留用せき板



大雨が降ると5cm程度多く貯まる!



“より災害に強いまち”にするため、水田貯留事業へのご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。



みんなのできる雨水対策

● 雨を川に流す

▼川幅を広げる工事や水路に溜まった土砂などを撤去し、雨が流れやすいようにします。

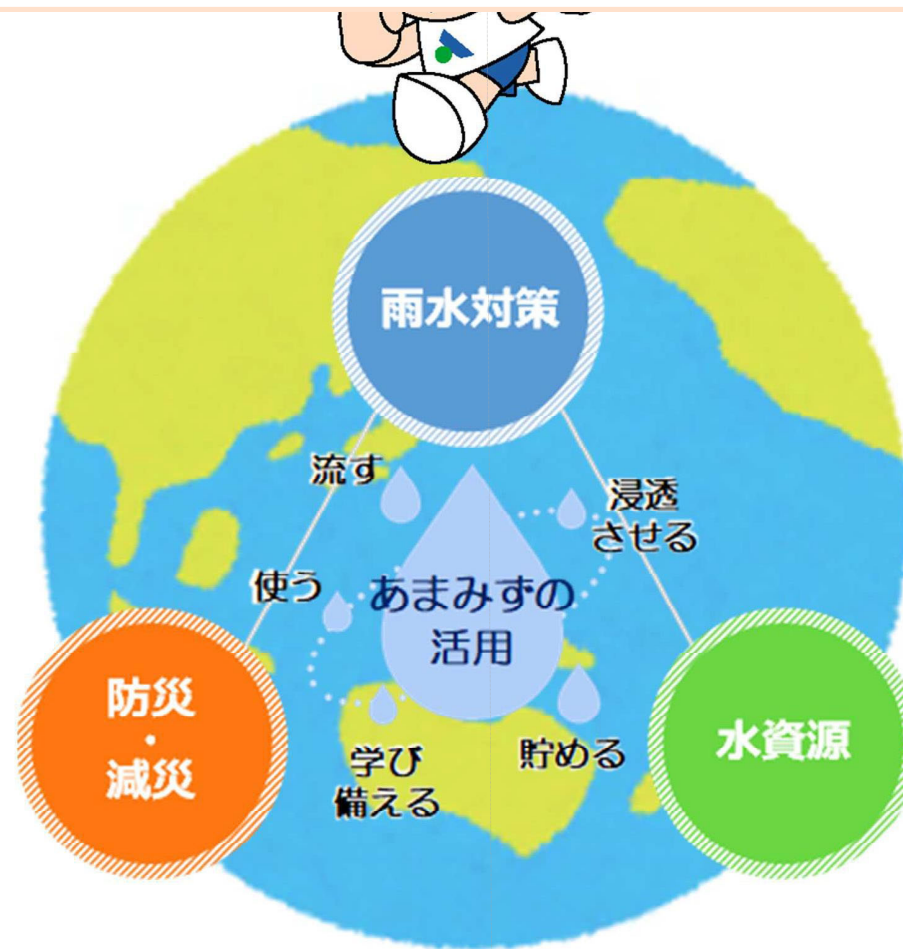


● 地域でハザードマップをつくる 大雨での避難訓練をする

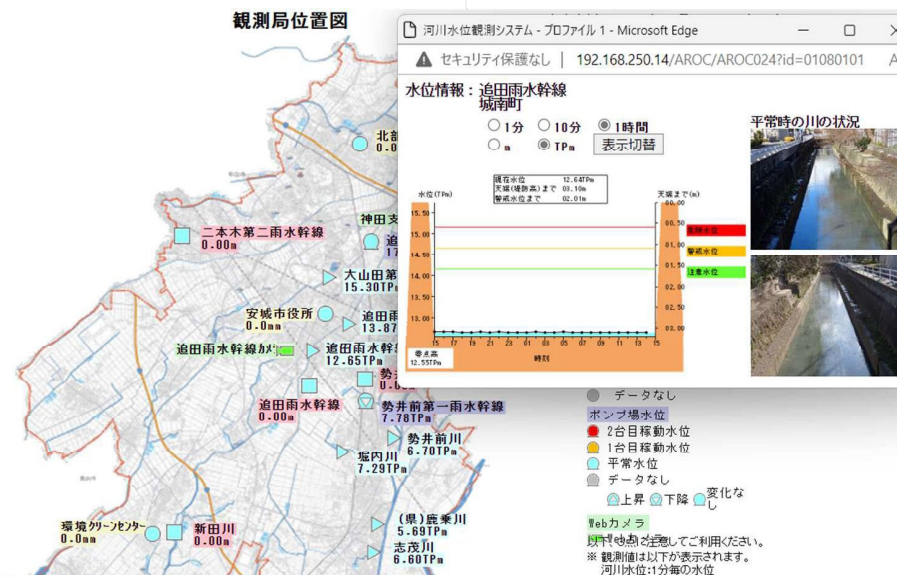
▼地域のみなさんで作成したハザードマップをつかい、避難訓練を行います。



安城市の雨水対策パンフレット (作成中)



● 雨の情報を集める



▲天気予報や川の水位を調べることで、大雨時の避難などに役立っています。

● 雨を貯める・しみ込ませる

▼雨を貯める池をつくり、浸水被害から住宅をまもります。



▼田んぼに雨水を貯めることで、川に流れる雨の量を抑えます。



👉 水田貯留で作ったお米
を学校給食で提供しました